

社会福祉法人 太陽学園機関紙

たいよう



編集・発行

社会福祉法人 太陽学園
福島市桜木町11-16 TEL.024-534-5397

障害福祉サービス事業所 太陽学園(通所)
福島市桜木町11-16 TEL.024-534-5397

障害者支援施設 福島おおなみ学園(入所)
福島市大波字水戸内向19-2 TEL.024-588-1822

共同生活援助 伊達ホーム
伊達市田町41-3

発行責任 社会福祉法人 太陽学園

健康の鍵

太陽学園園長 武田 万昌

「一日8,000歩、20分の速歩き」が健康の鍵と青柳幸利（東京都健康長寿医療センター研究所）さんは言っている。

群馬県中之条町の5,000人の65歳以上の高齢者（寝たきり除く）の身体を13年以上にわたり調査したものです。特別なトレーニングではなく、速歩きなどは日常生活の買い物など取り入れることでもよく、雨天の場合は足踏みでもよいそうです。1週間の範囲で不足したぶんを他の日に上乘せしても良く、病気の予防ラインとして、一日

「8,000歩20分の速歩き」高血圧症・糖尿病の予防

「7,000歩15分の速歩き」骨粗鬆症・がんの予防

「5,000歩7.5分の速歩き」認知症・心疾患・脳卒中の予防
「4,000歩5分の速歩き」うつ病の予防の効果があるらしい。朝よりも夕方が良いそうで、寝起き時は血液がドロドロなため血栓ができやすいそうです。

65歳過ぎたから始めるのではなく、若い人は日常生活、勤務中、通勤でも合計歩数はクリアしている。

利用者は交通機関の利用と徒歩で自主通園するので歩数はクリアに近い健康的でもあります。小生も実際に歩いてみて、8,000歩は1時間30分以上かかるようです。1万歩以上が良いと言われていましたが、8,000歩以上はむしろストレスになりマイナス効果になるとのことです。毎日8,000歩をクリアする人は健康そのものと思われませんが、1週間のうち1日位はクリアできても、毎日となると4,000歩が良いところです。

高齢知的障害者はガンバレ、ガンバレで就労訓練、生活訓練で社会性を高め自立へ向けてきて、さて65歳という年齢に到達したというだけで高齢障害者の介護保険サービスに移行し、介護保険の仕組みの福祉サービスへ変わり負担増ともなるという。介護保険のサービスを受けるにも健康そのもので8,000歩も可能な人が、



介護度0では介護保険で利用するサービスは無いということであり、後は本人が選択する生活であり障害者福祉サービスを受けられたとしても介護保険サービスの負担増となる。

これからの障害者福祉は、地域共生社会といって、「我が事・丸ごと」を目指して公的支援の「縦割り」だけでなく、地域住民の主体的な支え合いを育み、地域の資源を活かし、暮らしと地域社会に豊かさを生み出す。何をするかと言うと、今までやっていた障害福祉サービス事業所は、介護保険事業所の指定も受けやすくする特例を設けて新共生型サービス事業所となり、65歳以上になると介護保険で障害者福祉サービスを受けることになる。その逆もあり、介護保険サービス事業者も障害者福祉サービスの指定も受けやすくなる。

利用者の高齢化は顕著になっていることから、健康で元気な高齢障害者は増えてくると思われます。

来年の4月から生活介護事業者は新共生型サービス事業所もやれることになり、任意的とはいっても将来は共生型サービス事業所としての方向ではないかと思われます。社会福祉法人の改正により地域貢献をも含めた、社会福祉充実計画の推進を求められていますので、地域の互助の精神を頂きながら進めて行きたいと思えます。

太陽学園

10/22(土) (H28) 芋煮会

あづまライオンズクラブの方にご協力いただき、毎年恒例の芋煮会が行われました。さわやかな秋空の下、楽しく芋煮作りに取り組みました。班ごとに野菜の切り方、材料を鍋に入れるタイミング、味つけが異なるので鍋の数だけ味も様々でした。



12/15(木) (H28) クリスマス会

クリスマス会が行われました。神子によるキャンドルサービス、乾杯後のケーキタイム、お菓子、おいしい食事、サンタクロースからのプレゼント、ゲームの数々…。食堂がいつも以上に笑いに包まれた1日となりました。



「目かくしてパクリ。何を食べたか素早く言い当てよう。」

県スポーツ大会～ 5/21(日) (H29) 会津若松市のあいづドーム開催～

真仁…フライングディスク難しいです。もう少し特訓したいです。
金子…初めて金メダルとりました。ほく1位になりました。優勝しました。
公一…3位に入ったので、とてもうれしかったです。
田中…ディスクがまっすぐ飛ばなくて残念だった。
新谷…結果は7位だったけど楽しかったです。



武嶋…ディスクが的に1枚も入らなかったけど楽しかったです。
矢浪…和歌山(FD全国大会)でできた友達に会えたので楽しかったです。
後藤翼…目標10枚だったけど、5枚しか入りませんでした。次回から優勝目指して頑張ります。
実沢…ディスクが壁にぶつかなければ、もっと記録が伸びてましたが、1位になれてよかったです。

5/27(土) (H29) 合同運動会

信夫ヶ丘競技場で、おおなみ学園との合同運動会が行われました。身体を動かして汗を流して、声を出して応援して、とても楽しい1日となりました。そしておいしいお弁当。利用者さんの為に栄養バランスを考えて作ってくれたのはこの人(佐藤栄養士)。→



いや～ん みんなおきてー♡



礼じゃなくて弁当でしてよ!

7/25(火) (H29) 避難訓練

消防署の方との合同避難訓練が行われました。「火が出た」という想定で速やかに学園外に集合し、人員確認後、水消火器を使っでの消火訓練を行いました。見るのとやるのとでは大違い!戸惑いながらも何とか取り組む事ができました。最後は食堂で防災のVTRを見ました。避難訓練、役に立つ日は来てほしくないですが、備えはとても大切です。



「彼女のプレゼント～燃えなかつたクッション～」上映中

福島おおなみ学園

合同学園祭

10月15日(土)、福島おおなみ学園にて太陽学園・福島おおなみ学園合同学園祭が行われました。ステージ発表やバザー、模擬店等、静かな学園がお祭り会場に様変わりし、利用者の皆さんや保護者の皆さんも笑顔一杯で学園内を回られていました。



クリスマス会

12月18日(日)にクリスマス会を行いました。クリスマス会では最初から最後まで楽しい出来事が沢山ありました。食事はクリスマスケーキやピザ等、利用者の皆さんが大好きなメニューが並び、サンタさんからは利用者の皆さんが欲しかったプレゼントが届き、喜ばれていました。出し物として職員のダンスで笑い、行政書士の合唱チームと一緒に歌って楽しんでいました。



新年会

1月4日(水)に新年会を行いました。新年会では保護者の皆様にも参加して頂き、還暦のお祝いや、お正月恒例行事福笑いをして楽しめました。新年会恒例の抽選会では保護者の皆さんや利用者の皆さん全員、何が当たるかドキドキされながら参加していました。



合同反省会

3月18日(金)から3月19日(土)に掛けて飯坂温泉ホテル聚楽で行われた、太陽学園・福島おおなみ学園合同反省会では1年間を振り返り、表彰を行いました。その後は講演会、宴会、温泉、抽選会等、様々なイベントが目白押しで、保護者の皆さんや利用者の皆さんは充実したイベント内容に大変楽しまれていました。



日帰り研修旅行

7月10日(月)、利用者の皆さん全員で飯坂温泉ホテル聚楽に行きました。普段、外出が難しい利用者さんにも参加して頂き、カラオケや温泉、ランチバイキングを楽しませていただきました。利用者の皆さんは「色々な曲を歌ったよ。」「昼食は本当に美味しかった。」と帰園後に感想を話していました。



平成28年度 事業報告

社会福祉法人 太陽学園



1.施設の運営管理

社会福祉事業を推進するに当たり、利用者の基本的な人権を尊重し、施設環境の保全に努め、生活の場として快適な日々を過ごせるよう努めた。更に、社会参加の向上を図る一環として福島市中央学習センター・福島市立福島養護学校主催の在宅知的障害者の社会参加の育成事業のしゃくなげ青年講座へ参加し成果をあげた。

本部	事業	定員
太陽学園	生活介護	20
	就労継続支援B型	30
	特定相談支援事業 日中一時支援	5
おおなみ学園	生活介護	30
	就労継続支援B型	20
	施設入所支援	50
	短期入所事業 共同生活援助	4 5

消火避難訓練及び防災設備の訓練等

- 1月1回火災、地震等を想定して消火・避難訓練を実施した。
- 年1回消防設備法定点検を実施した。
- 福島消防署による防火設備等の立入検査並びに防火管理体制検証を受けた。

2.利用者の処遇について

施設利用者及び地域居住者等の障害の特性に照らして、個々に適した生活支援、職業指導、健康管理及び必要な機能訓練を行うほか、自立支援の充実と処遇向上のために努めた。

(1) 処遇方法の対応

年度当初において、施設利用者個々の態様に適した支援計画に基づき支援の実施。
また、本人活動の会を基に、安心して施設又は地域生活を送るために、相談し社会性を高める。

太陽学園

就労継続支援B型(定員30 現員30)360人利用
生活介護(定員20 現員18)214人利用
特定相談支援事業所(特定・知的障害)
日中一時支援 定員5人 福島市、国見町

福島おおなみ学園

生活介護30名
就労継続支援B型20名、
施設入所支援50名、
短期入所 定員4名
伊達ホーム 定員5名、現員4名

(2) 各種訓練の実施

- ① 自主運動により施設利用者の社会適応性の向上促進。
社会見学
太陽学園 9月8～9日 東京スカイツリー・下町浅草散策
福島おおなみ学園 11月9日 研修旅行、伊達ホーム合同
家族との交流を深めるため、次の日程により家庭実習訓練を実施した。
ゴールデンウィーク 4月29～5月3、4、5日
太陽は暦通り
夏季 8月13日～16日
冬季 12月29日～1月3日
- ④ 音楽訓練等の発表
太陽学園・おおなみ学園
ハンドベルフェスティバル
宮城大会(宮城県民会館) 7月17日
ハンドベルコンサート
福島大会(パルセイイざか) 12月11日
アンテナショップハンドベル
授産振興会(福島銀行本店) 12月9日
おおなみ学園
ハンドベル全国フェスティバル
昭和女子大記念講堂 11月20日
ハンドベルコンサート
成蹊高校ふれあいコンサート 2月11日
- ⑤ 地域との交流
自主製品の販売等を通して、PRを兼ねて地域交流に向けている。

3.各種行事・催し物・業務の実施

- 毎月実施したもの 誕生会、避難訓練

- 随時実施したもの 自主製品出向販売、パーゲンセール、外注品運搬
- 季節ごとに実施したもの
5月の節句、芋に会、クリスマス会、新年会、節分、雑祭り
- 福島県第54回福島県障がい者総合体育大会 福島市 5月15日
- 太陽・おおなみ合同運動会 5月21日 信夫ヶ丘競技場
- 第41回福島市障害者スポーツ大会 10月8日 信夫ヶ丘競技場
- 第28回福島市障害者週間記念事業ふれあいのつどい12月3～5日
及び第42回福島市福祉作品展12月5～7日 福島市アオウゼ
- しゃくなげ青年講座(福島市中央学習センター→以前は公民館)への参加

4.健康管理

- ① 結核検診、成人病検診、年2回(おおなみ学園)
- ② 体重測定 毎月
- ③ 嘱託医の出務 太陽学園年3回、福島おおなみ学園毎月2回出務して、施設利用者の健康管理及び機能回復に当たった。

5.給食

- (1) 嗜好調査を基に献立に反映させた。
- (2) 毎月1回給食委員会を実施し、施設利用者の要望等をとりいれ献立をたてた。
- (3) 施設利用者の要望により、調理実習も取り入れ選択メニューを実施した。

6.就労継続支援B型事業所(就労活動)について

工賃配分実績	太陽学園	年間事業収入	14,960,568円
		工賃支払い	5,679,970円
		延べ人数	360人
		平均月額	15,778円
	福島おおなみ学園	年間事業収入	9,315,316円
		工賃支払い	3,894,880円
		延べ人数	240人
		平均月額	16,229円

7.生活介護事業所 授産活動について

太陽学園	授産活動年間事業収入	812,160円
	工賃支払い	805,400円
	延べ人数	214人
	平均月額	3,764円
福島おおなみ学園	授産活動年間事業収入	1,196,532円
	工賃支払い	1,132,420円
	延べ人数	360人
	平均月額	3,146円

	太陽学園		おおなみ学園	
	回数	人数	回数	人数
法人関係の研修会苦情委員会	2	2	2	2
県及び研修センター主催研修会	8	8	8	8
研修団体(全国・東北)主催研修会	4	4	4	4
その他各種団体主催研修会	30	30	10	10
ハンドベル4連盟交流研修職員	3	10	4	15
利用者	3	40	4	30
地域学習センター等支援職員	13	15		
年間15回 利用者	14	120		
自主製品販売・委託品搬入出	平日	300	平日	100

8.ひまわり祭(太陽・おおなみ合同開催10月15日)

9.関係団体との連携

- (1) 関係機関団体に対しては連携を密にすると共に関連他の施設との連携に努めた。
- (2) ボランティアの積極的に受け入れた。

10.役員会の実施

理事会、評議員会、監事会及び評議員選任委員会の開催

11.一般事業実施報告 略

平成28年度 社会福祉法人太陽学園財務報告

全体財産目録 平成29年3月31日現在

法人名 社会福祉法人太陽学園

単位:円

資産の内訳		金額	負債の内訳		金額
I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金預金	315,053,372		事業未払金	4,194,299	
事業未収金	37,139,493		1年以内返済予定リース	790,944	
貯蔵品	229,045		預り金	64,214	
商品・製品	482,357		職員預り金	103,899	
仕掛品	89,972		賞与引当金	2,453,741	
原材料	204,438		未払消費税	251,900	
前払金	237,000		流動負債計	7,858,997	
前払費用	52,380		2 固定負債		
流動資産計	353,488,057		リース債務	2,372,832	
2 固定資産			退職給付引当金	18,840,454	
(1)基本財産			固定負債計	21,213,286	
土地	39,324,912		負債合計	29,072,283	
建物	186,183,474		差引純資産	1,051,316,080	
基本財産計	225,508,386				
(2)その他の固定資産					
土地	13,450,000				
建物	18,961,529				
構築物	13,944,544				
車両運搬具	3,801,766				
器具及び備品	15,197,342				
有形リース資産	19,392,000				
ソフトウェア	2,966,040				
退職給付引当資産	11,992,246				
人件費積立資産	65,901,566				
修繕積立資産	17,990,336				
備品等購入積立資産	16,999,880				
建設積立資産	13,000,000				
退職給付積立資産	6,848,208				
その他の積立資産	280,635,908				
差入保証金	50,000				
長期前払費用	157,225				
その他の固定資産計	501,391,920				
固定資産計	726,900,306				
資産合計	1,080,388,363				



貸借対照表 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

単位:円

資産の部				負債の部			
科目	当年度末	前年度末	増減	科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	353,488,057	324,789,761	28,698,296	流動負債	7,858,997	7,841,903	17,094
固定資産	726,900,306	723,116,363	3,783,943	固定負債	21,213,286	20,748,296	464,990
				負債の部合計	29,072,283	28,590,199	482,084
				純資産の部			
				基本金	140,719,228	140,719,228	0
				国庫補助金等特別積立金	109,090,765	114,978,806	△5,888,041
				その他の積立金	117,871,782	117,878,449	△6,667
				次期繰越活動増減差額	683,634,305	645,739,442	37,894,863
				純資産の部合計	1,051,316,080	1,019,315,925	32,000,155
資産の部合計	1,080,388,363	1,047,906,124	32,482,239	負債及び純資産の部合計	1,080,388,363	1,047,906,124	34,482,239

社会福祉法人太陽学園役員構成

理事 武田 万昌	監事 安倍 重男	評議員 野地 信一
理事 鈴木 君子	監事 菊嶋 健一	評議員 佐川 裕也
理事 武田 秀則		評議員 大石 康弘
理事 島貫 忠勝	評議員選任・解任委員会	評議員 新谷 義隆
理事 佐藤 一夫	委員 安倍 重男	評議員 佐藤 初子
理事 森田 久弥	委員 加藤 賢一	評議員 二階堂俊美
	委員 松浦さおり	評議員 佐久間晃子

社会福祉事業区分 資金収支内訳表 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 単位:円

Table with 5 columns: 勘定科目, 法人本部, 太陽学園, 福島おおなみ学園, 当年度決算. Rows include 事業活動による収支, 施設整備等による収支, and other activities.

社会福祉事業区分 事業活動内訳表 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日) 単位:円

Table with 5 columns: 勘定科目, 法人本部, 太陽学園, 福島おおなみ学園, 当年度決算. Rows include サービス活動増減の部, サービス活動外増減の部, and 特別増減の部.

平成29年度社会福祉法人太陽学園事業計画

みんながって、みんないい

社会福祉法人制度改革に対応しながら対策を行ってきました。平成29年4月1日施行の新定款、それに従った新評議員の定時評議員会を終え、新理事、新監事の選任により、これからの法人運営について利用者の人権を尊重し、サービスの質の向上への不断の努力を重ねるとともに、将来実施されます地域共生社会の実現へ向けて努力します。

第1 事業の目的及び方針

1.目的
当法人は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- 1 社会福祉法人太陽学園 本部(太陽学園内)
2 (太陽学園拠点事業所)指定障害福祉サービス事業
(1) 生活介護事業(定員20名)
利用者の意思決定に基づいたその人らしい生活が営むことができるよう支援し、創作的活動又は生産活動の機会の提供、その他の便宜を行います。

第2 施設の運営管理について

- 1 「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」(障害者総合支援法)に基づき指定を受けた施設・事業所は障害者総合支援法等の関係法令を遵守し、施設の運営管理に努める。
2 施設はできる限り住宅に近い環境のなかで、地域や家庭との結びつきを重んじた運営に努める。

第3 地域の在宅要援護者等に対するサービスについて

福島おおなみ学園指定短期入所事業所として、要援護状態または要支援状態にある知的障害者に対し適正かつ総合的な指定居宅支援を提供するため、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービス事業所との連携を図り、要支援者の特性を踏まえて、その有する能力に応じ自立に向けた日常生活を営むことができるよう支援計画の作成に努める。

第4 居宅支援サービスの運営管理について

グループホーム(共同生活援助)は居宅支援サービスの一つとして実施する。

第5 法人の社会福祉法施行に伴う対応について

- 1 利用者本位の福祉サービス提供を実現させるために苦情解決体制の推進を図り、サービスの質の向上に努める。
2 利用者主体のサービスの向上に努める。
3 公正・公平な事業運営と利用者のサービス選択に資するため、サービスの内容に関する情報の提供、財務諸表及び事業報告等の開示を行い、事業の透明性に努める。

第6 利用者へのサービス提供について

- 1 利用者個々の自主性自立心を損なうことなく、そのニーズを確実に把握し、その者に適した支援方針を作成し、日常生活支援、健康管理、相談、社会的活動支援、職業提供支援等を行い適切なサービス提供に努める。
2 利用者の社会活動への参加促進を図る。
3 障害者総合支援法に基づく見直し等の移行に係る、受給者票取得等のための諸手続きに協力して頂く。

第7 就労継続支援等について

- 1 就労継続支援事業(B型)は、一般企業等の雇用に結びつかない利用者が就労の機会等を通じ生産活動に関する知識や能力の向上を図る。また、利用者が参加できる作業内容を整え、作業を通して社会経済活動に参加することにより、働くことの自覚と喜びを見つけ、利用者自身が社会参加への方向性を見つけられるよう支援に努める。
2 一般就労も視野に入れ、職業相談、職場開拓、職場実習等の支援を行い、地域の中で働くことができるよう、体制作りを努める。

第8 生活支援について

- 1 地域参加の機会を多く設け、多くの人のふれあいを通して社会性の育成を支援する。
2 利用者の日常生活を変化と調いのあるものにするため、新聞、テレビ等を備えるはレクリエーション及び季節の行事等を実施し、社会人として自立できるよう支援する。
3 利用者の日常を観察し、実態把握に努めながら、能力に応じた生活目標をたて主体的な生活が高まるよう支援する。

第9 健康管理について

- 1 常に利用者の健康状態を把握し、健康状態に異常のある者には特に細心の注意を払い、必要に応じた適切な健康管理にあたる。
2 毎月体重測定及び必要とする者に対して血圧測定を行い、嘱託医との連絡を密にした、定期的な健康診断等を実施し、病気の予防並びに早期発見に努める。
3 利用者の健康保持のため、衛生管理と環境の整備に努める。

第10 給食について

- 1 献立は、充分な栄養と変化に富んだ内容とし、かつ利用者の生活習慣病予防、肥満について配慮し、減塩、減糖、減食などに取り組み、個々の健康状態も評価、判定し、栄養基準の適性量の確保に努める。
2 給食委員会を毎月開催し、利用者の希望等を勘案するほか嗜好調査を年1回以上実施し、献立に努める。
3 毎日残量調査を行い、利用者の嗜好を把握するとともに偏食等の是正の改善に努める。

第11 事故防止について

- 1 年2回の防災設備の法定点検と非常口、防火扉等建物の定期的な自主点検に加え、利用者の使用している電気器具の点検を実施し、事故発生の絶無と事故防止の徹底を図る。
2 法人施設間、職員間のほか、地域防災協力者、地域消防団など地域の人々の協力を要請し設置している緊急連絡体制が、有事の際、迅速、有効に機能するよう訓練の充実を図る。
3 火災、地震、水害等の非常災害時に利用者、職員が迅速、適切な避難行動がとれるよう訓練の充実を図るとともに、防災教育及び安全管理を徹底させる。

第12 職員の資質の向上について

- 1 各研修会等に積極的に参加させ、また先進種別の施設の視察を行い、施設内においては、社会福祉事業従事者としての職業観に立って、専門知識の修得と実務体験の積み重ねを通して、自己研鑽をしながら、資質の向上に努める。
2 職員相互の意思疎通をはかり、組織人として責任と協調性のある連帯意識をもって人間性豊かな職場環境づくりに努める。

第13 関係機関、団体との連携について

- 1 関係機関団体に対し連携を密にすると共に関連施設との連携に努める。
2 地域社会の理解と協力を求め、利用者の幸せと障害福祉の推進に努める。
3 ボランティアの積極的な受け入れ、相談援助実習生等の受け入れ

第14 施設の整備等について

社会福祉充実計画として、承認申請中です。施設整備予定はグループホームの設置、太陽学園の旧園舎の整備及び、日中活動の作業所などを進めたい。

第15 予算の執行

予算の執行にあたっては、適切な計画のもと適切に執行し、健全な運営に努める。

福島おおなみ学園 トイレ改修工事及び特殊浴設置工事に関して

福島おおなみ学園では、4月から8月にかけて1階トイレ改修工事及び居住棟特殊浴槽設置工事を実施しています。

トイレ改修では、これまで2階にしかなかったバリアフリートイレが1階にも設置されることで利便性が向上しました。

特殊浴槽設置工事では、女子居住棟隣に新たに浴室・休憩室を設置しました。入浴介助が必要な利用者の方々が車椅子に乗ったまま入浴を行うことができるようになります。

上記の設備は9月からの使用開始を予定しています。利用者の方々もとても心待ちにしているようです。



平成29年度 しゃくなげ青年講座 年間学習計画

回	開催日	曜日	学習内容	会場
1	5/7	日	開講式・オリエンテーション	中央学習センター
2	5/28	日	屋内レクリエーション	市立福島養護学校
3	6/11	日	「選挙」について学習しよう	中央学習センター
4	7/30	日	まちの施設を利用しよう① ～カラオケ～	歌うんだ村福島
5	8/20	日	福祉作品展に向けて作品を作ろう	中央学習センター
6	9/10	日	ボウリング大会	からしまボウル福島
7	10/1	日	中央地区文化祭に参加しよう	中央学習センター・公会堂
8	10/29	日	中央学習センターの掃除をしよう	中央学習センター
9	11/19	日	秋のくだものを食べよう (くだもの狩り)	市内の果樹園
10	12/17	日	クリスマスパーティーをしよう	中央学習センター
11	1/21	日	お楽しみ企画	未定
12	2/18	日	まちの施設を利用しよう② ～プラネタリウム～	こむこむ館
13	3/11	日	閉講式・1年間を振り返ろう	中央学習センター

【しゃくなげ青年講座関連事業】

◇福島市障がい者スポーツ大会

10月14日(土)

◇第43回福島市福祉作品展

12月 9日(土)～11日(月)

法人苦情解決担当者一覧

太陽学園	苦情解決責任者	園長 武田 万昌
	苦情解決担当者	森田 久弥
福島おおなみ学園	苦情解決責任者	園長 武田 秀則
	苦情解決担当者	齋藤 慎
伊達ホーム	苦情解決責任者	園長 武田 秀則
	苦情解決担当者	高野 憲一
法人第三者委員	安部重男・菊嶋健一・大石康弘	

事業所内の苦情について

法人3事業所内におきまして苦情がありましたら、各苦情担当委員(又は身近な職員)までご相談をお願いします。なお、各事業所内に掲示、苦情箱を設置しておりますので、そちらの方も気軽にご利用下さい。